

全国学力・学習状況調査結果公表 ～学力向上を実現するための効果的なアプローチ！！～

全国学力・学習状況調査の結果が公開となりました。調査結果についての分析・考察を通して、自校の課題を明確にし、子供の学力向上を保障する具体的な取組を、学校全体で進めることが大切です。本号では、西部地区で取り組まれ、実際に効果の上がった学校の取組について紹介します。

全国学力・学習状況調査の分析は、核となる研究チームで！！ ⇒管理職を含めた機動力のある、少数編成のチームで分析

「全国平均を5ポイント上回る」もしくは「5ポイント下回る」といった正答率や得点に着目するだけでなく、データから考察を深め、課題を焦点化することが大切です。そのためには、研究主任一人の考えではなく、研究チーム等を編成し、複数で協議を行うことが必要です。このことは、分析の深まりはもとより、次世代育成や教員の指導力向上にもつながります。



学力向上につながる有効な取組を紹介します（効果の上がった学校からの聞き取り）

「めあて—まとめ・振り返り」の継続的な実施と共通実践の徹底



全職員で合意形成を図り、課題解決に向けた共通実践を日々の授業で着実に実施することが学力向上のポイントです。職員が一つになって共通実践を徹底している点がお話を伺った学校の共通点でした。

同僚性・共通実践の徹底

子供のつまずきを放課後学習で補充



学校への聞き取りを行う中で、補充学習が有効であると複数の学校から伺いました。ウイークデーの部活動の休養日に学校で補充学習を行う等、一人一人の子供の困り感に全校体制で確実に対応する取組が学力向上につながっています。

全校体制での学力補充の徹底

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着

日々の授業が、「思考力・判断力・表現力」を育てる授業に偏らないよう、「知識・技能」の指導とのバランスを見直すことが大切です。例えば算数、数学では、「わかりやすく教える授業と子供に考えさせる授業のバランス」が重要です。「知識・技能」をねらう授業では、複数の適用問題を解いたりする等、1単位時間で取り組む問題数を増やすことも定着につながるのとことでした。



評価の観点による指導の在り方・学習量の確保

学校で家庭学習の計画を立て、家庭で実践（家庭学習の習慣化に効果）

学校で毎日10分程度の時間を設定し、家庭学習の計画を立て、家で実践するという取組も効果が上がるとのことでした。①教科書、ノート等を机の上に準備、②1日の学習の振り返り、③家庭学習の内容を決定、④余った時間は学校で学習に着手、⑤残りは家庭で実施。学校と家庭で、学びのサイクルをつくる取組です。自学ノートについても、具体的なテーマを提示することで、漢字練習・計算練習に限らない自主的な学びの「自学」になるとの声もいただきました。



家庭学習の充実

学力向上が進む学校では、教職員同士の「同僚性」「共通実践の徹底」が重視され、指導研究の文化が確立されています。児童生徒の学力向上のために、引き続き全校体制での課題解決のための取組の推進をよろしくお願ひします。